

授業科目名	【G】 刑法(総論) I	区分 選択必修	開講年次	【G】2	単位数	【G】2		
科目区分	専門科目							
授業形態	対面授業							
担当形態	単独							
施行規則に定める科目区分又は事項等								
サブタイトル	すべての犯罪に共通する成立要件(前半)				担当者	青木 陽介		
授業概要	【概要】	この講義では、刑法の目的、基本原理、刑罰論及び犯罪論(すべての犯罪に共通の成立要件)について解説する。「刑法(総論) I」では、犯罪論の前半部分(違法性まで)を取り扱う。						
	【到達目標】	この授業を履修して勉強を行った学生が、犯罪の一般的な成立要件についての基本的な知識を習得し、それを自らの言葉で説明できるようになること。また、それを活用して事例問題を解決することができるようになることを目標とする。						
履修条件	特になし。第1回目の講義には必ず出席すること。							
アクティブラーニングの方法	【-】	事前学習型	【-】	反転授業	【-】	調査学習	【-】	フィールドワーク
	【-】	双方向アンケート	【-】	グループワーク	【-】	対話・議論型授業	【-】	ロールプレイ
	【-】	プレゼンテーション	【-】	模擬授業	【-】	PBL	【-】	その他
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	- (当てはまらない)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	- (当てはまらない)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)④	- (当てはまらない)						
他科目との関連性	引き続き、後期に「刑法(総論) II」(青木担当)もあわせて履修することが望ましい。 また、刑法全体についての理解を深めるため、「刑法(各論) I・II」を履修(事前履修・同時履修・将来の履修のいずれも可。また、担当者は問わない。)することを推奨する。							
教科書	西田典之〔補訂：橋爪隆〕『刑法総論(第3版)』(弘文堂、2019) (なお、授業開始前に、当日使用する資料を配布する。また、下記参考書①については、授業中に参照する予定である。)							
参考書	①：山口厚＝佐伯仁志＝橋爪隆(編)『判例刑法総論(第8版)』(有斐閣、2023) ②：橋爪隆『刑法総論の悩みどころ』(有斐閣、2020)							
評価方法	中間試験・学習到達度確認試験(85%)および毎回の授業における小課題(15%)により評価する。							
フィードバック方法	配布したレジュメ上の空欄箇所を埋める等の小課題を毎回出題する。課題はclassroomにて提出してもらい、それを添削した上で返却する。 また、中間試験および学習到達度確認試験についても、模範解答を示す等の形でフィードバックを行う。							
評価基準	上記授業単元の内容につき、問題の所在や判例・学説の状況をよく理解し、適切に表現できた者にはその程度に応じて「S」または「A」を与える。授業内容についての理解度や表現内容に何らかの不適切な点がある者はその程度に応じて「B」または「C」とし、授業内容についての理解自体が不十分な者はその程度に応じて「D」または「E」とする。なお、試験を欠席した場合、評価不能のため「F」とする。							

授業科目名	【G】 刑法(総論) I	区分	開講年次	【G】2	単位数	【G】2
		選択必修				
授業回数	授業内容					
1	ガイダンス、刑法とは、刑法の目的 予習：教科書の該当箇所(1頁以下、31頁以下)を読む。 復習：講義内容を整理・確認し、不明点を参考書等で調べる。(90分)					
2	刑法の基本原理 予習：教科書の該当箇所(45頁以下)を読む。 復習：講義内容を整理・確認し、不明点を参考書等で調べる。(90分)					
3	刑罰論 予習：教科書の該当箇所(16頁以下)を読む。 復習：講義内容を整理・確認し、不明点を参考書等で調べる。(90分)					
4	犯罪論の体系、構成要件 予習：教科書の該当箇所(65頁以下、73頁以下)を読む。 復習：講義内容を整理・確認し、不明点を参考書等で調べる。(90分)					
5	因果関係①(条件関係、結果回避可能性) 予習：教科書の該当箇所(96頁以下)を読む。 復習：講義内容を整理・確認し、不明点を参考書等で調べる。(90分)					
6	因果関係②(相当因果関係、危険の現実化) 予習：教科書の該当箇所(104頁以下)を読む。 復習：講義内容を整理・確認し、不明点を参考書等で調べる。(90分)					
7	不作為犯①(総説、保障人的地位) 予習：教科書の該当箇所(121頁以下)を読む。 復習：講義内容を整理・確認し、不明点を参考書等で調べる。(90分)					
8	不作為犯②(因果関係、実行行為、作為可能性)、中間試験 予習：教科書の該当箇所(123頁以下)を読む。 復習：講義内容を整理・確認し、不明点を参考書等で調べる。(90分)					
9	違法性の基礎理論、中間試験の解説 予習：教科書の該当箇所(134頁以下)を読む。 復習：講義内容を整理・確認し、不明点を参考書等で調べる。(90分)					
10	正当防衛①(急迫性、自招侵害) 予習：教科書の該当箇所(162頁以下)を読む。 復習：講義内容を整理・確認し、不明点を参考書等で調べる。(90分)					
11	正当防衛②(防衛行為、防衛の意思、相当性) 予習：教科書の該当箇所(180頁以下)を読む。 復習：講義内容を整理・確認し、不明点を参考書等で調べる。(90分)					
12	過剰防衛、誤想防衛・誤想過剰防衛 予習：教科書の該当箇所(184頁以下)を読む。 復習：講義内容を整理・確認し、不明点を参考書等で調べる。(90分)					
13	緊急避難 予習：教科書の該当箇所(146頁以下)を読む。 復習：講義内容を整理・確認し、不明点を参考書等で調べる。(90分)					
14	被害者の同意、推定的同意、危険の引き受け 予習：教科書の該当箇所(200頁以下)を読む。 復習：講義内容を整理・確認し、不明点を参考書等で調べる。(90分)					
15	その他の違法性阻却事由(安楽死など)、学習到達度確認試験及びその解説 予習：配布資料・ノートの確認。 復習：試験問題で間違えた箇所を、模範解答で確認する。(60分)					
その他	講義では適宜条文を参照するので、最新の六法(出版社は問わない)を必ず持参すること。 また、判例を確認するため、参考書①を度々参照する予定である。こちらも持参すること。 なお、私語等の授業を妨害する行為を行う学生に対して、退室を命じることがある。 ※G加:【選択必修(D)】					